

エフェソの信徒への手紙4章1節～8節　そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、すべてのものの父である神は唯一であって、すべてのものの上にあります、すべてのものを通して働き、すべてのもののおられます。しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています。そこで、／「高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、／人々に賜物を分け与えられた」と言われています。

「著者」は、諸教会の愛するキリスト者たちに、心の内にキリストを住ませ、愛に根ざし、しっかり立つように、また、キリストの人知を超えた愛を知り、その愛に満たされるように、更に、教会とイエス・キリスによって、神の栄光が世々限りなくありますようにという美しい祈りを書き送った。続いて、「主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます」と勧めの言葉を書いている。それは、「神から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい」と、神の招きに相応しく、従順で、謙遜で、寛容であること、愛をもって忍耐し、平和な関係を保つこと、そして「霊による一致を保つように努めなさい」と勧めている。

最後の、「霊による一致を保つように努めなさい」という言葉に強調点がある。「体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ」と、体、霊、希望、主、信仰、洗礼は皆「一つ」であると言い、それは、全てのものの父である神が唯一であることに根拠を持っている。パウロは、「つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです（Iコリント12:13）」と、ユダヤ人であれ、ギリシア人であれ、奴隷であれ、自由な者であれ、洗礼において一つの霊を飲ませてもらったのだから、皆一つの体にされているという教会論を記している。霊によって、神は唯一で、全てのものの上にあります、全てのものを通して働き、全てのもののおられことを知らされ、一致を保っていくのである。

ここから、「しかし、わたしたち一人一人に、キリストの賜物のはかりに従って、恵みが与えられています」と、教会に集められた者たちの多様性を論じていく。「『高い所に昇るとき、捕らわれ人を連れて行き、／人々に賜物を分け与えられた』と言われています」という言葉は、「主よ、神よ／あなたは高い天に上り、人々をとりこし、人々を貢ぎ物として取り（詩編68編19節）」からの引用であるが、後半を「人々に賜物を分け与えられ」と書き替えている。即ち、キリストに召し集められた者たちは多様な賜物を分け与えられていると解釈している。神は唯一であるが、教会に集う人々は色々な賜物を持った多様な者たちの群れであると言っている訳である。9節以降で、それを論じている。